

◎車いす講習会

平成25年9月24日(火曜日)

片瀬地区社協主催、在宅介護支援センター「鶴生園」による「車いす講習会」が鶴生園地下会議室で行われました。出席者十九名。

居宅介護支援センターの職員による車いすの使い方の説明があり、受講生が二人一組で、車いすからベッドへ、ベッドから車いすへの移動を交互に行い、次に車いすの押し方、坂道や段差での動かし方などの実習を行いました。

車いす対象者を移動させる場合、まず対象者の足の間に自分の足を入れ、前かがみになって肩につかまってもらい、腰をかかえて、一、二、三とかけ声をかけながら移動させると、介護者の腰に負担がかからず楽に移動させることが出来るなど、大変参考になりました。

最新のリクライニングベッド、



車いす、トイレの展示や説明もあり介護機器の進歩には目を見はるものがありました。

私の健康法

あーるけあるけ

片瀬二丁目
石川 治江

湘南と云うブランドの此の地に住んで50年です。私の家は平地より少し高い所に在ります。20段の石段と8m位のスロープです。

友人が来ると必ず云います。「此の坂よく上って来るね」私は即答えます。「上らなければ帰れないじゃない」。散歩のコースも私なりに決めています。Aコースは目白山―腰越―竜口寺、Bコースは山本橋―水族館―洲鼻通り。私の足で一時間七千歩位です。車の中から見るのと異なつた風景が見られます。

「アラこの花素適、何と云う名前かしら」特に芝生の中に咲いているネジリ花はとて好きです。手に取ってみたい様な花です。

私の子供の頃にこんな歌をうたった思いがあります。

♪あるけあるけ、あるけあるけ、東へ西へ、あるけあるけ、南へ北へ、あるけあるけ。

私の健康法はただ歩くのみです。これからも脳の司令塔が歩く力を与えてくれる限り、歩くことに専念したいと思います。(原文のまま)

片瀬社協
だより

しあわせ

平成25年11月25日発行
編集・発行
片瀬地区社会福祉協議会
藤沢市片瀬3丁目9番6号
片瀬市民センター
☎ 0466 (27) 2711



地域密着型の

「小規模多機能型居宅介護」を

ご存じですか？

6月24日(月)片瀬地区社会福祉協議会の評議員研修に22名が参加しました。

片瀬地区の高齢化率は24%、市内でいちばん高齢化が進行しています。特に認知症者が地域でふつうに暮らせるようにするためには、介護保険の地域密着型の介護事業の充実が有効になってきます。というところで、今回は小規模多機能型居宅介護事業所の「おたがいさん」(藤沢市亀井野)を訪問しました。

NHKで紹介され、全国各地から見学者が訪れています。その対応で超多忙な施設責任者の加藤忠相氏に案内していただきました。

まずはじめに施設近くの六会公民館で1時間余り小規模多機能型

居宅介護事業のポイントを学びました。

小規模多機能型は、以前各地で行われていた「宅老所」が介護保険の事業になったものです。利用者は自宅から通って自分のやりたいことをしてのびのびと日中を過ごし、緊急の泊まりもOK。必要なら事業者が利用者の居宅を訪問して介護もするなど、利用者の状況に応じて臨機応変に対応するものです。

従来型の施設だと、どうしても高齢者を「介護される人」と位置づけ、時間割で管理することになりがちですが、「おたがいさん」では高齢者が主役、スタッフは見守る人で高齢者の力を引き出す役割

を担っています。「デイサービス」「ショートステイ」とは呼ばず「通い」「宿泊」と言っています。

・「通い」送迎の時間割や滞在時間活動内容は利用者のニーズに合わせて対応しています。訪問時は、ワゴン車に乗って買物から帰ってこられたところでした。

・「宿泊」普通は自宅から通います。が、必要なときには泊まれます。ご本人の状態や家族の事情などに合わせて柔軟に対応されています。

・「訪問介護・看護」利用者がカゼをひいて通って来られないとき、連絡のないときなど、自宅を訪問して様子を伺い、介護するなど積極的に対応をしています。

ひとつの事業所が統一に対応するのがミソです。

お話の後、利用者に迷惑をかけるないように留意しながら「おたがいさん」を訪問しました。

まず目につくのが、施設の玄関



脇の小さな駄菓子コーナーです。そこに近所の子どもが買いに来て高齢者とふれ合う、ときには室内で一緒に過ごすこともあります。利用者でない近所の高齢者がお茶を飲みに来ることもあるなど、出入り自由なのです。施設が地域との交流の場所になっています。

そして、利用者が料理や縫物、野菜づくりなど人生で身につけた力を生かし、できることは自主的にどんどん動き、ときには先生役Ⅱ主役になって活動し、能力アップしています。

訪問したのは昼食時間帯でしたが、利用者が配膳をし、あちこちで笑い声が響き、利用者、スタッフともに笑顔いっぱい、和やかな雰囲気でした。豊かに生きる場所、地域社会とつながった施設、地域の拠点を目ざしていると感じました。氏は熱く語られました。

広報部会からお願い!

「しあわせ」への投稿
大歓迎です。お待ちしております。

バザーの報告

今年のバザーの収益は
一八二、六三〇円でした。
みなさまのご協力ありがとうございました。

東洋医学を取り入れた歯科治療

むくなし歯科医院(片瀬4丁目)

椋 梨 兼 彰

歯科医師になって今年で20年目になります。平成9年春に江ノ電鶴沼駅前開院し、平成11年末に現在の片瀬に移転してきました。

15年ほど前より通常の歯科治療の他に東洋医学「漢方薬」「鍼灸」を取り入れて診療しております。当時は歯科治療に東洋医学を取り入れる医院など殆ど無く、一風変わった歯科医院と思われていました。

鍼灸治療では「顎関節症」「三叉神経痛」「顔面神経麻痺」「口腔乾燥症」などの治療を。漢方薬治療においては現在漢方薬約200種類を常備しており、

患者さん一人一人に合わせた治療を行っております。

2012年から保険制度の見直しにより「歯痛」「口内炎」「口腔乾燥症」「歯周病」「抜歯後疼痛」などに漢方薬を処方することができるようになりました。

地域活動としましては藤沢歯科医師会会員として地域の皆様の健康増進、藤沢ロータリークラブでは現在第60代会長として藤沢市の社会奉仕活動等を行っており、地域発展のために少しでもお役に立てればと思っております。

編集後記

今年の夏はまさに異常気象の猛暑酷暑で台風が三十も発生しましたが、昔から夏が暑い年は冬が寒いと言います。早くも朝夕は肌寒さを感じるほど秋が深まってきました。風邪にお気をつけください。(SS)



平成25年度

片瀬地区敬老会

9月10日（火）、秩父宮記念体育館にて、80歳以上の方三二六名、それに御結婚70年（一組）、60年（二組）、50年（十三組）の長寿夫妻も主席され、盛大に行われました。

各部会の事業紹介

ふれあい部会の事業

◎ふれあいお楽しみ会

・六月六日 バラいっぱいのお花菜ガーデンへ。美しいバラの園を自由散策、その後あさつゆ広場でお買い物をして4時半帰着しました。

・十月十一日 汗ばむような日射しの中、フラワーセンターでいろいろな草花を鑑賞。「楽しかったわ」、「今度はいつ？」などの声が聞かれたお楽しみ会でした。

総務部会の事業

◎障がい福祉ミニ講座

基礎的な知識を学び、障がい者を理解し、支援を広げるための場として3回シリーズで企画されました。

1回 9月4日（水）参加者19名

◇「障がいってなあに？ 障がい者福祉の概要」

尾上義和氏（藤沢市発達障がい支援事業所リートの相談支援専門員、精神保健福祉士）

しあわせとは



片瀬小学校で「そらいろのたね」というお話ボランティアグループとして子ども達にお話を届けて18年が経ちました。「そらいろのたね」というのは中川李枝子さんの絵本の題名で、私たちは今も変わらず、この絵本を一年生の最初のお話会で読んでいます。

18年の間に学校は土曜日が休日になりゆとり教育があり、いろいろな変化がありましたが、先生方はじめたくさんの方々の暖かい応援と理解の中で月日を重ねてきたなあと思います。



「そらいろのたね」と私

荻野香苗（片瀬2丁目）

私はこのお話会のボランティアに出会えてとても幸せです。私が何かをしてあげるのではなく、子ども達からたくさん元気や喜びをもらっています。「そらいろのたね」にもっと仲間が増えて、子ども達とのステキな時間を共有できたらと思います。

最後に、片小でのお話会は小学校と地域の暖かい方々、仲間に見守られていることに感謝いたします。



理事研修

秦野市交通事情の視察



6月3日（月）、私達一行20名は、秦野市の乗合いタクシーの運行概要を知るため、秦野市役所と秦野交通へ見学に行きました。

秦野市は、小田急線が東西に4駅あり、地形が盆地であることから、以前は駅を中心に路線バスが放射状に運行されていたのですが、不採算等で路線からの撤退や減便が進み、住民には交通が不便になりました。

そこで平成21年11月より地域住民・行政・交通事業者の連携で、デマンド型利用者登録制乗合いタクシーや路線固定型のタクシーが運行を始めました。更に25年2月からは路線固定型の乗合いワゴン車も渋沢駅・秦野赤十字病院のルートで運行されています。

片瀬でも公共交通の便の悪い地域に住む高齢者や住民のために、新しい地域の交通手段として考えてみてはどうでしょうか。

携し、子どもの特性に応じた支援を行っていただきます。まずはお電話ください。相談は予約制です。

〇四六六一五〇―三五九六
◇「支援で成長する教え子とひろがる人間関係」

入澤正樹氏（前白浜養護学校校長）
教育は社会の中で生きやすい力をつけさせるためのもの。

一人一人違うので、それぞれの特性を知ることから始まり、その子ども達が生活していく力をどのようにつけていくかの課題を見つけて、保護者と一緒に考え、工夫をしていきます。社会には小さな違いを受け入れる力があるはずなので、子ども達には学校や地域の中で関わる場Ⅱ接点があるのが望ましいと思っています。

3回めは12月10日（火）でテーマは「社会に出ていくことが困難な人への支援の取組み」

◇障がい者の就労と支援
◇働くことや自立に悩む若者への支援です。ぜひご参加ください。

◎めざせ元気シニア

六月十八日（土） 滑舌、音読
八月二十八日（水） 健康体操
十月八日（火） 音読 健康体操

社会は平均に合わせてつくられているので、個人の知識や社会性の発達が生徒の平均から遅れている部分に障がいが見えてきます。その差をどのように埋めるのが支援の課題です。

◇「自閉症のわが子を社会におくりにだした体験」
首藤しげみ氏（藤沢市自閉児・者親の会会長）

社会性の障がいはいろいろな現れ方をします。親として、まずその子の特性を理解することから始まり、そしてその子自身が理解しやすい方法を見つけ、社会参加へ向けての親子の数々の苦労や工夫を、具体的な事例をあげて語られました。

2回 10月12日（土）参加者24名
◇「未就学期の発達の悩み、早期の相談と支援」
高梨 恵氏（藤沢市子ども家庭課・子ども発達支援担当）

相談の入口はさまざまです。同年齢の子どもと少し違う…など不安な気持ちを抱えて相談に来られることが多いです。年齢や状態に合わせて様々な相談員が個別に応じ、定期的にアドバイスしながら支援しています。また他機関と連